

生活科教育 理論 研修会 終了報告

テーマ	コロナ禍における生活科の在り方	
日時	令和 3年7月28日(水)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	<p>瀬尾祐貴氏 (肩書:名寄市立名寄小学校教諭)</p>	
参加者	約 22名	
研修会 の 様子		<p>生活科・総合的な学習で先進的かつ実践的な研究を進めているオホーツク管内の研究団体「北海道オホーツク地区生活科・総合的な学習教育連盟」から、瀬尾祐貴氏を講師にお招きしました。</p>
		<p>「生活科ってこれでいいの?」という題目に、身を乗り出しながら聞く部会員も多かったです。 「振り返りカードは誰のために行うものか」 「掲示の仕方は『子どもファースト』になっているか」 学習指導要領にもある通り、低学年においては生活科が要となります。すでに石狩管内でも「縦のつながり」については議論されてきましたが、これからは「横のつながり」も意識してほしいという付言がありました。</p>
		<p>Zoom を活用し、普段なら足を運ぶことでしか伺えない、遠方の実践の様子を伺うことができました。Zoom を用いた研修会は、生活科部会において初めてでしたが、滞りなく進めることができました。 瀬尾氏をはじめとするオホーツク管内校の各実践を、写真や動画を交えながら教えていただきました。今年度は GIGA スクール元年と言われていますが、オホーツク管内ではすでに配備等が終了しており、ロイノートの一部である思考ツール(クラゲチャート・Yチャート等)を活用した取り組みは、生活科と非常に高い親和性を持つことがわかりました。</p>
		<p>スタートカリキュラムで先進的な実践を行っている横浜市の取り組みも伺うことができました。石狩管内ではまだまだスタートカリキュラムそのものが十分に浸透しているとは言い難い状況です。幼保小の連携を要に、「1年生をお客様として丁寧にもてなすのではなく、『ひとつ学年が上がった立場』からできることを考えていきましょう」というお言葉は、部会員に大変響く言葉となりました。「資料をいただくことはできないでしょうか」と意欲的に学ぶ部会員の姿が多くみられました。</p>